



「シマルーベへの詰替え “—自動給油機器—”

ご自分で好きなグリースをシマルーベに詰替えませんか。

1. 右の写真のように簡単に詰替えが出来ますよ。
2. 充填のための資材類は、全て取り揃えています。
3. 高所等の危険なグリースアップを無くしましょう。
4. 給油忘れを無くしましょう。

荷姿:125ml*1本～、125ml*10本



「磐高物語」 16

湯元温泉の共同浴場で、数日間の溜まった汗と垢の身体を石鹸で流し合い、湯舟に浸かると何故か別世界に居るような気持ちになった。

リーダー格の山岸さんが、気持ちを絞り出すように言った。

『やっぱり、風呂はいいなあ』

先程ヒヤリとさせられた湯の湖の冷たい水温を思い出していたのかも知れない。リーダーとしての自覚が、この短い言葉に表されているような気がした。

『リーダーありがとう。あなたのお陰で、この温かいお風呂に入れました』

わたしは、心の中で呟いていた。

風呂から上がると、林さんがめずらしく最初に口を開いた。

『さあ、最後のキャンプ場の中禅寺湖だ。がんばっぺえ』

『んだ、おめえがいじげん軽いの背負ってんだがらよ』

同い年の高瀬さんが、皮肉交じりに話した。

『尾瀬の旅・第五日続き』

戦場ヶ原を抜け中禅寺湖のキャンプ場に着いたものの、私たちのリュックにはもうお米と少々味の増しか入ってなかった。『さっき通ったどこさ釣堀があったつぺ。あそこで魚釣っておかずにすつぺ』

山岸さんの提案に皆賛成した。しかし、釣堀で釣った魚の持ち出しは当然だが有料だった。私たちは草むらの中に魚を隠し、夜陰にまぎれて持ち出すことにした。お金も少なくなっていて、背に腹は変えられなかった。

夕闇の中、焚き火の明かりと共に隣のキャンプから好い匂いが漂って来た。わたしは矢も盾もたまらずお米を持って隣のテントに飛び込んだ。

『こんばんは、お米と缶詰を交換してもらえませんか。正直おかしになる物が何もないんです』

私の真剣な言葉に同情したのか、『高校生か、いいよこの缶詰と交換してあげるよ』と、言ってくれた優しさが今でも忘れられない。

☆ あとがき ☆



今年の温泉卓球は、たくさんの参加人数の都合で神栖市に会場を移して行われた。主催の茨城県卓球連盟の村山部長様はじめサポートいただいた会員の皆様のご努力は並大抵ではなかったものと感謝しております。

参加させていただいた私どもの会員の中には、カラオケあり全く予期していなかったパフォーマンスありで大盛会でした。ありがとうございました。